

# 今からでも間に合う 自給飼料作物栽培のポイント

雪印種苗(株) 宮崎研究農場

八 谷 寿

## 1 はじめに

秋も深まり木枯らしが吹く季節になりました。トウモロコシの収穫も西南暖地の2期作を残すのみです。農家の皆様におかれましては、冬の訪れの前の慌ただしい日々をお過ごしのことと拝察申し上げます。

ここでは、イタリアンライグラスやムギ類といった秋播き作物、及び、それらの混播栽培についてご紹介し、これから作付を予定している方々への参考に供したいと思います。

## 2 今から播ける作物とは

10月に入るとイタリアンライグラスやムギ類が中心になります。主な作物とその代表的な利用法について表1に示しました。

乾草利用の場合は予乾のための日数が必要ですので、乾きの早い作物イタリアンライグラス、ライムギ、オオムギの利用をお勧めします。

## 3 どの作物・品種を使うか

秋播き作物栽培で最も重要なポイントは播種期(播種限界)です。地域、作物によって播種期が異なるので、播種に当たってはどの作物がいつまで播種できるか把握することが重要です。そこで府県を大きく東北、関東、西南暖地の3地域に分け、各地域にあった作物と栽培のポイントをご説明いたします(図1参照)。

表1 秋播き作物とその利用法

草種名	主な品種	乾草	サイレージ	青刈り
イタリアンライグラス	タチマサリ	●	●	●
エンバク	ニューオールマイティ	×	●	●
ライコムギ	ライコッコ	×	●	●
ライムギ	春一番	●	●	▲
オオムギ	ワセドリ	●	●	▲

○：最適、△：適、×：不適

### 1) 東北地方

東北地方は最も播種期間が短く、しかも、冬の寒冷、積雪が厳しいので栽培可能な作物が限られます。

東北地方の主要な秋播き作物はライムギです。ライムギの極早生「春一番」は耐寒性が強く、低温での発芽・生育、耐雪性も優れます(写真1)。

積雪地帯ではライムギ晩生「春香」をお勧めします。根雪期間が100日を超す地域ではライムギに雪腐病(紅色雪腐病)が発生し、ライムギを死滅させることがあります。「春香」は紅色雪腐病抵抗性品種







写真1 ライムギ「春一番」耐寒性強



左：他社品種H 右：「春香」  
写真2 ライムギ「春香」雪腐病抵抗性大

です。積雪地帯でも安心して利用できます(写真2)。東北南部の積雪の少ない地域ではイタリアンライグラスやライコムギも利用できます。

## 2) 関東地方

関東地方ではイタリアンライグラス、ライムギ、ライコムギに加えエンバク、オオムギが栽培可能です。関東地方での品種選定のポイントは作物の利用法(青刈り、サイレージ、乾草)と収穫期です。この場合の収穫期は、後作作付までにどの程度の期間が取れるかで決まります。

イタリアンライグラスは栽培が容易で、地域や環境適応性が広いこと、多収、かつ嗜好性が良好で、青刈りから乾草、サイレージのいずれの利用法にも適します。イタリアンライグラスには極早生から晩生まであり、後作の播種時期によって品種の早晩を決めるのが一般的です(表2)。

ムギ類は利用法によって草種が異なります。青刈り・サイレージ利用の場合はエンバク「ニューオールマイティ」(写真3)、または、ライコムギ「ライコッコ」(写真4)を、また、乾草・サイレージ利用の場合はオオムギ「ワセドリ」(写真5)、または、ライムギ「春一番」をご利用下さい。各品種の主な特性は表3の通りです。

## 3) 西南暖地

西南暖地では関東地方と同じ作物が栽培できます。関東地方に比べ冬期が温暖なため播種期間が長いのが特徴です。イタリアンライグラスは11月中旬まで播種できますし、エンバク、オオムギは

11月下旬まで播種できます。また播種が12月に遅れた場合は12月上旬までライコムギが、12月下旬までライムギが作付けできます。

## 4 イタリアンライグラスとムギ類混播栽培

イタリアンライグラスとムギ類の混播栽培はムギの種類・播種時期・混播する目的によって、多種多様に分かれます。ムギの種類としては、オオムギ、エンバク、ライムギ、ライコムギがあり、それ

表2 イタリアンライグラス品種の使い分け

品種名	早晩性	利用型	選定のポイント(後作との関係)
サクラワセ	極早生	極短期	早播きトウモロコシ、早期水稲の前作
タチマサリ、タチワセ	早生	短期	トウモロコシ、ソルガムの前作
タチムシャ	中生	短期	トウモロコシ、ソルガムの前作
マンモスB	中晩生	中期	ソルガム、暖地型牧草の前作
エース	晩生	長期	ソルガム晩播の前作や草地での周年栽培

表3 ムギ類の特性

草種名	品種名	早晩性	播種量(kg/10a)	主な特性
エンバク	ハイオーツ	早生	4~6	ロールベール利用に適したエンバク
	ニューオールマイティ	中生	6~8	青刈、サイレージ利用に適したエンバク
ライコムギ	ライコッコ	極早生	7	耐倒伏性極強、多収品種
ライムギ	春一番	極早生	5~8	耐寒性、耐雪性に優れ、晩播できる
	春香	晩生	8~10	雪腐病抵抗性品種、豪雪地帯向き
オオムギ	ワセドリ	極早生	6~8	粗たんぱく質含量が高く、嗜好性が良い





写真3 エンパク「ニューオールマイティ」生草収量大



写真4 ライコムギ「ライッコ」耐倒伏性極強

それぞれの作物の特性によって、播種時期や混播の形態が異なります。また、混播する目的としては、年間での収量増加やサイレージの嗜好性・物理性の改善、倒伏の軽減、イタリアンライグラスの冬枯れ防止などがあげられます。

#### 1) サイレージの発酵品質、物理性の改善

秋播きのイタリアンライグラスの中にムギ類を混播することによって、子実の登熟による TDN の増加、乾物率の上昇による予乾時間の短縮、麦稈が混入するためサイレージにフォークが刺しやすくなるなどの効果が期待されます。

収穫時に、イタリアンライグラスが出穂期、ムギ類が乳熟期になるように、品種の組み合わせと播種期を設定することが肝心です。単播の播種適



写真5 オオムギ「ワセドリ」嗜好性良好

期がイタリアンライグラスとムギ類では異なるため、混播の場合にはその中間、すなわち、関東地方では10月中旬～10月下旬、西南暖地で10月下旬～11月上旬となります。

#### ① ワセドリ(オオムギ)+タチマサリまたはタチワセ (イタリアンライグラス・早生)

タチマサリは直立型の草姿で、混播栽培に適した品種です。ワセドリとの混播では、タチマサリの方が草丈が高くなり、ワセドリの子実の登熟が遅れがちになるので、タチマサリの播種量を少々減らす方が得策です。また、窒素肥料が多い場合にもタチマサリの生育が勝り、混播のバランスがくずれるため、窒素肥料は控えめにします。混播割合はワセドリ4～5 kg/10 a, タチマサリ2～3 kg/10 a を標準とします(写真6)。

#### ② スーパーハヤテ隼(エンパク)+マンモスB (イタリアンライグラス・中晩生)

両方とも生育が旺盛で、かなり多収を見込める組み合わせです。混播割合はスーパーハヤテ隼2～3 kg/10 a, マンモスB 2～3 kg/10 a を標準とします。

#### 2) イタリアンライグラスの倒伏軽減

ムギ類の麦稈はイタリアンライグラスより強く、中でもライコムギは最も耐倒伏性に優れるため、混播によってイタリアンライグラスの倒伏を防止、または軽減します。また、ライコムギは耐寒性、収量性に優れているので、イタリアンライグラスの冬枯れ防止効果や増収効果が期待できます。





写真6 「ワセドリ」と「タチワセ」混播栽培

### ライコッコ(ライコムギ)+タチマサリまたはタチワセ(イタリアンライグラス・早生)

ライコッコの収穫適期は出穂期～乳熟期(約3週間)です。関東では4月下旬～5月上旬、西南暖地では4月上旬～4月下旬に出穂しますので早生品種のタチマサリと組み合わせます。混播割合はライコッコ4 kg/10 a, タチマサリ3 kg/10 aを標準とします(写真7)。

### 3) イタリアンライグラスの冬枯れ防止

イタリアンライグラスは特に関東以北で播種が遅れた場合に、冬枯れがおきやすい状況となります。幼苗期で凍結や寒害に耐えられなかったり、風で動いた土に埋没したりします。この場合、低温伸長性に優れ、発芽後の生育の早いライムギを混播すると冬枯れの防止に効果的です。

### 春一番(ライムギ)+タチマサリまたはタチワセ(イタリアンライグラス・早生)

春一番は低温でも生育が早く、雪腐病に強いライムギです。春一番は東北で4月下旬～5月中旬、関東で4月上旬～4月中旬、西南暖地で3月中旬～4月上旬に出穂しますので早生品種、タチマサリと組み合わせます。混播割合は春一番3 kg/10 a, タチマサリ3 kg/10 aを標準とします。

### 4) 刈取り適期幅の拡大(イタリアン品種の混播)

春の天候は不安定です。このため、せっかくのイタリアンライグラスを適期に収穫できず、刈遅れる方も少なくないようです。そこで刈取り適期幅の拡大のため、イタリアンライグラスの早生品



写真7 「ライコッコ」と「タチワセ」混播栽培

種と中晩生品種を混播します。つまり早晩性の異なる品種を混播することによって栄養価の急激な低下を防ぐことができます。

### タチマサリまたはタチワセ(イタリアンライグラス・早生)+マンモスB(イタリアンライグラス・中晩生)

収穫はタチマサリの出穂期(関東: 4月25日頃)からマンモスBの出穂初期(関東: 5月10日頃)にかけて行います。この約2週間のうち、晴天が続く時期に刈取りができます。東北地方では4月30日頃～5月15日頃、西南暖地では4月15日頃～5月5日頃刈取り適期となります。混播割合はタチマサリ1.5 kg/10 a, マンモスB 2 kg/10 aを標準とします。

## 5 まとめ

自給飼料作物は、ただ作れば良いという時代から、優良品種の特性を良く引き出す栽培、さらには、収穫状況の実態から、その問題点を克服できる栽培・利用へと変化してきました。

秋播き春どり栽培は、気象的にみると大きな災害も少なく、安定多収が得られやすく、確かな取り組みを期待したいところです。

「今からでも間に合う」というタイトルでその可能性に対応した作物・品種をご紹介しました。寒冷に向かう時期でもあり、播種遅れは致命的なダメージを受ける場合もあり、播種適期をはずさぬよう、早目早目の準備をお勧めする次第です。